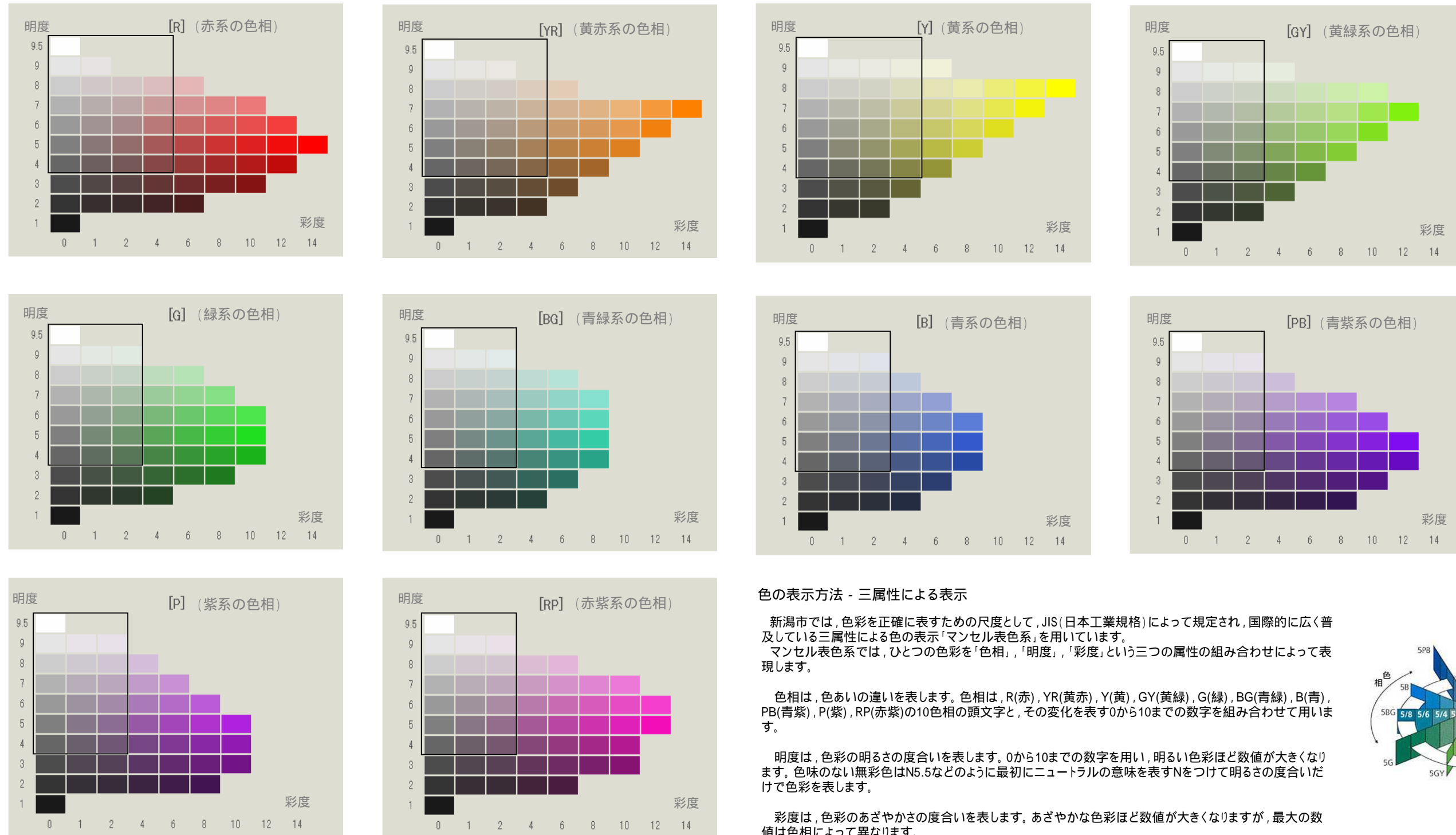


一般区域における建築物の基調色について

景観形成基準

周辺の環境や建築物との調和を図り、圧迫感や突出感を与えないようにするため、外観の基調色は、マンセル値によるものとし、彩度6以下とすること。
 また、明度4以上となるよう努めること。さらに、色相がR, YR, Yの場合は彩度4以下、色相がGY, G, BG, B, PB, P, RPの場合は彩度2以下となるよう努めること。

下の代表的な各色相見本内の黒枠で囲まれた部分は、努めていただきたい色彩の範囲を例示したものです。



注) 上記の色は印刷のため、実際の色とは多少異なります。

色の表示方法 - 三属性による表示

新潟市では、色彩を正確に表すための尺度として、JIS(日本工業規格)によって規定され、国際的に広く普及している三属性による色の表示「マンセル表色系」を用いています。

マンセル表色系では、ひとつの色彩を「色相」、「明度」、「彩度」という三つの属性の組み合わせによって表現します。

色相は、色あいの違いを表します。色相は、R(赤), YR(黄赤), Y(黄), GY(黄緑), G(緑), BG(青緑), B(青), PB(青紫), P(紫), RP(赤紫)の10色相の頭文字と、その変化を表す0から10までの数字を組み合わせ用います。

明度は、色彩の明るさの度合いを表します。0から10までの数字を用い、明るい色彩ほど数値が大きくなります。色味のない無彩色はN5.5などのように最初にニュートラルの意味を表すNをつけて明るさの度合いだけで色彩を表します。

彩度は、色彩のあざやかさの度合いを表します。あざやかな色彩ほど数値が大きくなりますが、最大の数値は色相によって異なります。

これら3つの属性の尺度を、色相、明度、彩度の順に並べたものがマンセル記号です。
 例えば下の色は「7.5YR 7.0 / 6.0」とし、「7.5ワイアール、7.0の6.0」と読みます。

	7.5YR 7.0/6.0
色相 (色あい)	明度 (明るさ)
7.5ワイアール	7.0
	彩度 (あざやかさ)
	6.0

